



mirai no mori

ANNUAL REPORT 2023

認定NPOみらいの森2023年度活動報告書

アウトドアで育む子どもたちの未来

Empowering marginalized youth in the outdoors



もくじ

Table of contents

	PAGE		PAGE		PAGE
ミッションとビジョン MISSION AND VISION	03	自然つながりプログラム BACK TO NATURE PROGRAMS	10-11	みらいの森チーム & 活動計算書 MIRAI NO MORI TEAM & FINANCIAL STATEMENT	22
みらいの森からのメッセージ MESSAGE FROM MIRAI NO MORI	04	リーダー実習プログラム LEADER IN TRAINING PROGRAM	12-13	サポーターのみなさま OUR SUPPORTERS	23
児童養護施設の子どもたち CHILDREN WE SUPPORT	05	卒業生プログラム GRADUATES PROGRAM	14-15		
みらいの森プログラム MIRAI NO MORI PROGRAM	06-07	KIWLとのパートナーシップ PARTNERSHIP WITH KIWL	16-17		
サマーキャンプ SUMMER CAMP	08-09	プログラムの成果 OUR IMPACT	18-21		

ミッション

Mission

NPOみらいの森は、児童養護施設で暮らす子どもたちに向けて、アウトドアプログラムを通じて生涯の糧となる体験を創り出し、幸せで実りある未来へつなげるサポートをします。

Not-for-profit organization (NPO) Mirai no Mori creates life-changing outdoor programs for abused, neglected, and orphaned children in Japan, supporting their growth into happy and successful young adults.

ビジョン

Vision

私たちは、すべての子どもたちが平等な機会を持つ日本社会の実現をめざします。

We envision a Japan where all children have equal opportunities.

みらいの森のプログラムは、子どもたちが自分の将来の道を自分の力で切り拓くためのスキルや知識を、体験を通して身に着けられるようにデザインされています。子どもたちは様々な経験とチャレンジを乗り越え、新たな自分と可能性を見つけ、自己実現と創造性にあふれた未来へと向かっていくのです。

Mirai no Mori programs are designed to provide the skills and knowledge that the children need to be able to choose and create their own path for the future. Through new experiences and overcoming many challenges, children discover new possibilities for themselves, leading to self-actualization and a flourishing future.

みらいの森からのメッセージ

Message from Mirai no Mori



岡 こそえ エグゼクティブディレクター
KOZUE OKA, EXECUTIVE DIRECTOR

2023年には、みらいの森プログラムもようやくコロナ前の形に戻り始めました。4月には複数の施設における合同プログラムを再開し、キャンパーたちだけでなく、職員さんたちの交流もみられるようになりました。また、「自然つながりプログラム」では企業ボランティアの方々にもロールモデルとして参加していただけるようになり、キャンパーたちにもリーダー(リーダー実習生)たちにとっても視野を広げるとても良い機会となっています。新たに加わっていただいたプログラムスタッフにも定期的に参加してもらうことができ、チャリティイベントなども再開し始め、コミュニティーの輪も広がり始めています。

コロナ禍で取り入れた新しい形も定着してきています。昨年までは、1施設ずつ、同じ内容の「自然つながりプログラム」を月に2回開催していましたが、より多くの子どもたちが毎月プログラムに参加できるように、施設合同になっても月2回の開催を継続しています。また、キャンパーがチームリーダーとなる形は今でも継続させ、リピーターや年上のキャンパーたちが新しいチャレンジと達成感を体験できる場となっています。LITたちにはプログラム内でより重要で責任のある役割を担ってもらえるようになり、卒業生たちもボランティアスタッフとしてプログラムに戻ってきたり、イベントに参加してくれたり、相談相手として頼ってきてくれたりと、様々な形でサポートを継続することができ、ニーズに沿ってプログラムを進化させることができている。

コロナ禍では参加を見送っていた施設も、ようやくプログラムに戻ってくることができ、一回りも二回りも大きくなった子どもたちと再会することができました。また、新たに施設に入所した子や小学校低学年の子たちもプログラムに参加してくれて、新しいキャンパーたちも増えてきています。しかし、コロナ禍でプログラムに参加できず、そのまま繋がりが断たれてしまった施設もあります。私たちのプログラムを、より多くの子どもたちの自立支援のため活用いただけるよう、あらためて施設や担当職員さんと信頼関係を築いていく必要もあります。

現場からの課題も常に聞こえてきます。深刻な人手不足は慢性化し、働き方改革などの行政の方針へ対応するための人員のやりくりが難しく、継続的なプログラムへの参加を断念せざるを得ない施設もありました。「大人と相談したくても忙しそうで話しかけにくい」という子どもたちの切実な声も聞こえてきます。職員さんがどんなにご尽力されても、限りある資源とまだ不十分な制度の影響を受けるのは、施設に暮らしている子どもたちです。この変化し続ける世界の中で、決して平等とは言えない状況に置かれた子どもたちが1人でも多く、真の幸せを手に入れられるように、みらいの森も進化し活動を続けていきます。今後とも、みらいの森へのご支援とご協力をよろしく願っています。

Our program has finally returned to its original format before COVID-19. In April, for the first time in four years, we had a program with multiple homes, and campers and care workers from different homes were finally able to interact. Corporate sponsors were also able to join us in the weekend Back to Nature Program, acting as role models, not just for the campers but also for LITs. New program volunteer staff were able to join our programs regularly, and charity events have resumed. We are expanding our community of supporters again.

However, we retained some formats we adopted during the pandemic. Back to Nature programs are now held twice a month, so more campers have the opportunity to join. We also ask campers to be the team leader, giving older and repeating campers a chance to step up and take on more challenges. LITs, too, have bigger roles to play during the program, having more important tasks and responsibilities. Our graduate members joined a few of our programs and events as volunteer staff, giving them more chances to talk to different adults and further expand their world. Our programs have been evolving and improving.

Some care homes that couldn't participate during the pandemic were able to come back this year, and we were reunited with campers who are all grown up. We also welcomed a few first- and second-graders joining our programs for the first time. Unfortunately, we also had a few homes with whom we lost contact in these four years, and we will need to re-establish our relationship with the homes and the care workers.

We still hear of serious issues in situations surrounding these children. Labor shortages at care homes still persist, and new labor policies restrict the care homes from freely creating shifts. Some homes could not participate in the programs due to a lack of resources. We also hear from children that adults seem too busy and unavailable for a talk. No matter how hard care workers try, it is simply impossible to overcome the limited resources and inadequate policies on their own. And it is the well-being of the children in care that is ultimately affected by these limitations. Mirai no Mori will continue to work and evolve in this ever-changing world so that every child has access to equal opportunity for their true happiness. We sincerely appreciate your continuous support for Mirai no Mori.

児童養護施設の子どもたち

Children We Support

児童養護施設とそこに住む子どもたち

児童養護施設とは、親と一緒に暮らせない、または、親や家族による適切な養育が困難な1～18歳の子どもが生活している施設です。入所理由はさまざまで、親との死別、離婚や病気、経済的な理由などが挙げられます。最近では、親族からの虐待による入所が増え、入所児童の半数以上が虐待を受けた経験があるとも報告されています。

施設では、より家庭的な養護に近づけるよう、小規模なグループホームでの生活が主流となりつつあります。数人の子どもたちと担当の職員さんたちが、ひとつのグループとなり生活しています。施設の職員さんは子どもたちの日常のお世話だけでなく、学校や地域との連携、親や児童相談所、行政とのやり取りなど、多種多様な業務を日々、献身的に行っています。

児童養護施設に住む子どもたちは原則18歳で、高校卒業と同時に施設を退所し、衣・食・住すべてにおいて自立を強いられます。複雑な過去を持ち、施設という特殊な環境で育ち、限られた学びの機会しか得られてこなかった子どもたちは、自立後に社会での「普通」を学ぶことになります。しかし、社会では児童養護施設に対し、「問題行動が多い子どもたちや、反社会的な子どもたちが多い」「親に捨てられたかわいそうな子どもたちが住んでいる」等、正しい理解がまだまだ普及していません。また、当たり前のように保証人として親が必要なアパートや携帯電話の契約時の困難など、自立していく子どもたちはさまざま問題に直面します。施設で生活していることや、施設出身であることを秘密にしている子どもたちも大勢います。

高校卒業後に自立し、頼れる大人もいない多くの子どもたちは、経済的な理由から就職を選びます。しかし、自立後の新しい環境で、新しい人間関係をつくり、責任を持って仕事や学校などに取り組んでいく準備を、施設にいる間にすべて整えることは簡単なことではありません。最近になり、ようやく施設を管轄する児童福祉法が改定され、退所年齢の撤廃や退所後のサポートの充実等が取り入れられました。しかし、現場では深刻な人手不足で新しい基準への対応には時間がかかり、子ども一人一人に沿ったサポートを全員に提供することは困難なのが現状です。

金銭管理、学校とバイトの両立、上下関係、偏見、孤独感からくるストレスなど、自立後に急に直面する問題に対応しきれない子どもたちもいます。身の回りの物理的な準備に加え、自分自身の心構えもできていなく、社会に十分なセーフティネットがあるとはいえない状況で、心の傷も癒えないまま「自立」していく多くの子どもたちの展望は、決して明るいとはいえません。



27,026

児童養護施設で暮らす子どもたちの数
NUMBER OF CHILDREN LIVING IN CARE HOMES

612

日本全国にある児童養護施設の数
NUMBER OF CARE HOMES IN JAPAN

93.3%

両親または一方の親がいる割合
PERCENTAGE OF CHILDREN WHO STILL HAVE AT LEAST ONE PARENT

65.6%

入所児童のうち、被虐待体験のある子どもたちの割合
PERCENTAGE OF CHILDREN IN CARE WHO HAVE EXPERIENCED ABUSE IN THE PAST

参考資料：児童養護施設入所児童等調査の概要(平成30年2月1日現在)
厚生労働省子ども家庭局、厚生労働省社会援護局障害保健福祉部 令和2年1月
SUMMARY OF THE SURVEY ON CHILDREN IN FOSTER CARE (AS OF FEBRUARY 1, 2018)
MINISTRY OF HEALTH, LABOUR AND WELFARE: CHILD AND FAMILY POLICY BUREAU AND DEPARTMENT OF HEALTH AND WELFARE FOR PERSONS WITH DISABILITIES, JANUARY 2020

みらいの森プログラム

Mirai no Mori Program

「みらいの森プログラム」は、児童養護施設で暮らす子どもたちが社会に出た時に直面する様々な問題に対応し、自分の道を自分で切り拓くために必要となる「生きる力」を、体験を通して学び、身につけてもらうことを目的としてデザインしています。

児童養護施設での生活には、さまざまな制約が課せられます。多種多様な体験から学ぶ機会も限られており、一般家庭の子どもたちと「体験の格差」が生じていると言われています。そんな状況の中で暮らしている子どもたちは、みらいの森の非日常の環境で、新しい価値観や考え方と出会います。キャンパー主体のアクティビティを通して、他人に任せるのではなく、自分の意志で物事を決め、新しい事に挑戦します。そこで必要となってくる協調性やリーダーシップ、コミュニケーション力を、小さな失敗を繰り返しながら築き上げ、自分のスキルとして身につけていきます。

みらいの森プログラムでは、施設の職員さんにも子どもたちと同じようにアクティビティに参加してもらい、普段は見られない子どもたちの一面や一人一人の可能性を実際に見てもらうことができます。そして、そこでの発見を彼らの日常の生活と成長につなげていくことができます。

Mirai no Mori programs are designed to equip children with the “essential life skills” they will require to overcome the variety of issues they may face when they become independent and create their own path for the future.

Children living in care homes have limited opportunities for experiential learning due to the restrictions in the current child welfare system. Through Mirai no Mori programs, the children encounter new ideas and values and are exposed to a unique environment where they can think and act on their own. Program activities naturally teach them about leadership, teamwork, and communication. And through new challenges and minor mishaps, they begin to learn and gain new skills.

We also ask care workers to join our programs as one of the “campers.” Children often act differently from their daily lives and show new abilities through our unique activities. Care workers can then take the new discoveries back into their daily lives.

プログラムのコンセプト PROGRAM PRINCIPLES

体験型
EXPERIENTIAL LEARNING

子どもたちは、今までやったことのないことを経験し、考えたことのないことを考えることで、言葉や理論だけでは伝わらない知識や考え方を自分自身の体験を通して身につけることができます。

The children learn through their own experience, allowing them to acquire new perspectives and awareness that cannot be conveyed through words or theories.

継続的
CONTINUOUS

毎月、そして毎年参加できるプログラムで、子どもたちは学びを継続することができます。また、馴染みのある環境に安心感を持ち、普段はやらないような新しいことにも挑戦し、その子の成長に合わせた環境で学びを継続することができます。

Children can continue their learning based on their experiences in the previous programs. A familiar and secure environment also allows children to gain confidence and challenge themselves through new activities, providing an evolving environment for them to learn as they grow.

プログラムのツール OUR TOOLS

アウトドア
OUTDOORS

非日常で、差別や偏見のない「自然」という環境を舞台にした活動を通し、子どもたちは自分で考え行動する力を学びます。また、物事を広い視野でとらえ、目的や目標設定などを学ぶことで、自らゴールへたどり着く術を学びます。

Nature provides a stage without discrimination or prejudice, where children can learn to think and act on their own. They can also learn to pay attention to their surroundings and experience setting and achieving their own goals.

多文化
DIVERSITY

世界に存在する多様な考え方に触れることで、子どもたちは視野を広げ、新たな自分を見つけることができます。また、普段の「常識」が通じない相手と交流することで、新たな表現方法などを学び、コミュニケーション力を高めます。

Children are exposed to diverse ideas and values, broadening their outlook on the world and themselves. They also learn different ways to express themselves by communicating with people who don't share their same “common sense.”

ロールモデル
ROLE MODELS

子どもたちは、親でも、先生でも、職員さんでもない、様々な背景を持つスタッフやボランティアと出会います。多様な形で活躍している大人たちと交流し、将来の仕事やライフスタイルの選択肢に気が付き、可能性を広げます。

Children interact with adults with diverse backgrounds, who are different from their parents, teachers, or care workers. By learning about their jobs and lifestyles, children can expand their options and possibilities for their future.

「みらいの森プログラム」は、年間を通して幅広い学びの場を継続して提供するため、夏休みや連休に開催する宿泊型と、毎月開催する日帰りプログラムの2タイプのプログラムで構成しています。

宿泊型プログラム

夏休みや冬休み、時には週末を使って開催する宿泊プログラムでは、子どもたちはチームとして活動します。常に大人が世話をしてくれる普段の生活と違い、自分たちでチームをまとめてアクティビティに参加します。自らがまとめ役になることでチームワークや他のメンバーとの協調性の大切さに気づき、コミュニケーション力を養い、リーダーシップを発揮してくれる子どもも多くなります。数日間活動を共にすることで、スタッフや新しい仲間と信頼関係を築き、安心できる環境の中で、日常ではなかなか挑戦しないようなことにもチャレンジできるようになります。

普段とは違う環境で他の子どもたちと生活の場を共有し、自然の中でのアクティビティを楽しむための装備や道具などを自分で管理することで、子どもたちは「自分のことに責任を持つ」ことを学びます。また、何度か参加したことのある子どもたちは、初めての参加者に教える役に回ったり、お手本になったりと、リピーターがより一層輝くプログラムでもあり、「キャンプマジック」（後述）がもっとも生まれるプログラムでもあります。

毎月のプログラム

毎月開催する日帰りプログラムでは、子どもたちはハイキングやクラフト、木こり体験、ラフティングなど、さまざまなアクティビティを通して興味の世界を広げることができます。プログラムには多種多様な背景を持つプログラムスタッフや、スポンサー企業の従業員ボランティアの方なども参加します。定期的に参加することで、子どもたちは多くの大人と交流する機会が増え、普段の生活では出会わないような考え方や文化に触れて、視野を広げることができます。また、多くの職業やライフスタイルを持つ大人たちと交流し、自分たちの将来の選択肢を広げることができます。

リーダー実習プログラム

施設退所後に自信を持って社会で暮らしていくために必要な知識や技術、物事の見かたや考えかたを学ぶ、「自立」に焦点を当てた高校生向けの年間プログラムです。毎月のプログラムにはサポートスタッフとして参加し、サポートされる側ではなく、サポートする側に回ります。そこでのリーダーとしての体験や、プロジェクトマネジメントやパブリックスピーキングなどのワークショップを通して、自立後の生活に直接つながるスキルを身に付けます。また、企業訪問プログラムでは、様々な業界の会社とそこで働く人たちと出会い、社会の仕組みを学び、「働く」ことへのより正確なイメージを持ってもらい、よりスムーズな自立を迎えるための知識を得ることができます。

みらいの森プログラムでは子どもたちが施設では見せたことのない、職員さんもお手伝いしたり、好き嫌い言わずご飯を食べたり、人前で大きな声で発表できたり、体力がないと心配される子が8kmものハイキングを一人で歩けたりと、子どもによってさまざまですが、普段では決してやらないようなことが、ここではできてしまいます。みらいの森ではこれを「キャンプマジック」と呼んでいます。これは子どもたちが真の自分と可能性を表に出してきている証拠で、プログラム内でもとても大事にしています。また、このキャンプマジックをどのように日常生活につなげるかもプログラムとして、常に工夫を重ねています。

Mirai no Mori provides unique learning opportunities through multi-day residential camps and monthly day programs that support continual experiential learning.

RESIDENTIAL CAMPS

Children join activities in teams in the multi-day residential programs, usually held during summer break and on weekends. Unlike their daily life where adults are in charge, children must manage themselves and work together to enjoy all the activities. Being in the position to manage themselves, children learn the importance of teamwork and communication, and some children naturally start to show leadership. This program also gives repeating campers a chance to shine as they teach first-time campers and serve as role models.

Through camp life and various outdoor activities, the children learn to be self-reliant and responsible by managing their camp life and the equipment used for the activities. By spending a few days together, children begin to form trusting relationships with their peers and camp staff. In this secure environment, they are able to take on challenges that they normally would not, making this program full of “Camp Magic.”



MONTHLY PROGRAMS

Monthly programs provides a variety of fun activities, such as hiking, crafts, forestry, and rafting, allowing children to explore and expand their interests. We also ask volunteers from sponsoring companies to join the programs as role models. By joining these programs regularly and interacting with different adults, children encounter diverse cultures and values, as well as various occupations and lifestyles, allowing them to expand their possibilities for the future.

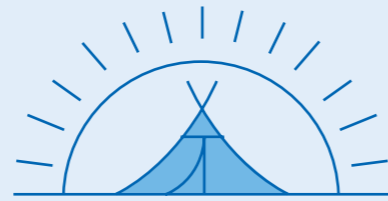


LEADER IN TRAINING PROGRAM

This year-long program is for high school-aged children focusing on the transition to “independence.” Participants act as staff members in the monthly programs. The experience of being on the supporting side, rather than being supported, combined with various workshops, such as project management and public speaking, teaches them skills that directly apply to their independent life. Participants also join workplace visit programs to learn about different industries and workstyles, gain a more accurate image of working life, and acquire the knowledge and attitude necessary to live confidently after leaving their care homes.

キャンプマジック CAMP MAGIC

In our programs, the children tend to behave differently than usual, which even surprises their care workers. They may help in the kitchen, eat their food without a fuss, speak in front of people, or complete an 8-km hike on their own. At Mirai no Mori, we call this “Camp Magic,” and we value it very highly. “Camp Magic” signifies that the children are truly being themselves and demonstrating their own ability and potential. One of our continuing challenges is creating ways for children to take this “Camp Magic” back into their daily lives.



サマーキャンプ

Summer Camp

- 85 参加キャンパーの数
CAMPERS
- 9 参加リーダー実習生の数
LIT PARTICIPANTS
- 23 参加引率職員さんの数
CARE WORKERS
- 20 参加キャンプスタッフ & ボランティアの数
CAMP STAFF & VOLUNTEERS
- 8 参加施設数
CHILDREN'S HOMES

2023年の夏は、4年ぶりとなる、複数施設合同の4泊5日のサマーキャンプを3セッション開催することができました。顔見知りの同じ施設の子どもたちだけでなく、初めましての新しい仲間と一緒に、スリルあふれる沢登りや、アウトドアクッキング、チーム対抗戦アクティビティなど、涙あり、笑いありの学びの機会溢れる夏となりました。

キャンパー時代にリーダー実習生の活躍を見てきた子たちが高校生となり戻ってきてくれたり、キャンパーそしてリーダー実習生として数えきれない夏を宮城で一緒に過ごした卒業生がキャンプボランティアとして帰ってきてくれたりと、10年継続して活動してきたからこそその繋がりも感じられる、特別な夏となりました。

In the summer of 2023, for the first time in four years, we were able to hold three sessions of a 4-night/5-day summer camp with multiple care homes. With new friends as their teammates, campers enjoyed many activities, like thrilling stream hikes, outdoor cooking, and team competitions. There were some tears and a lot of laughter, and it was full of learning opportunities.

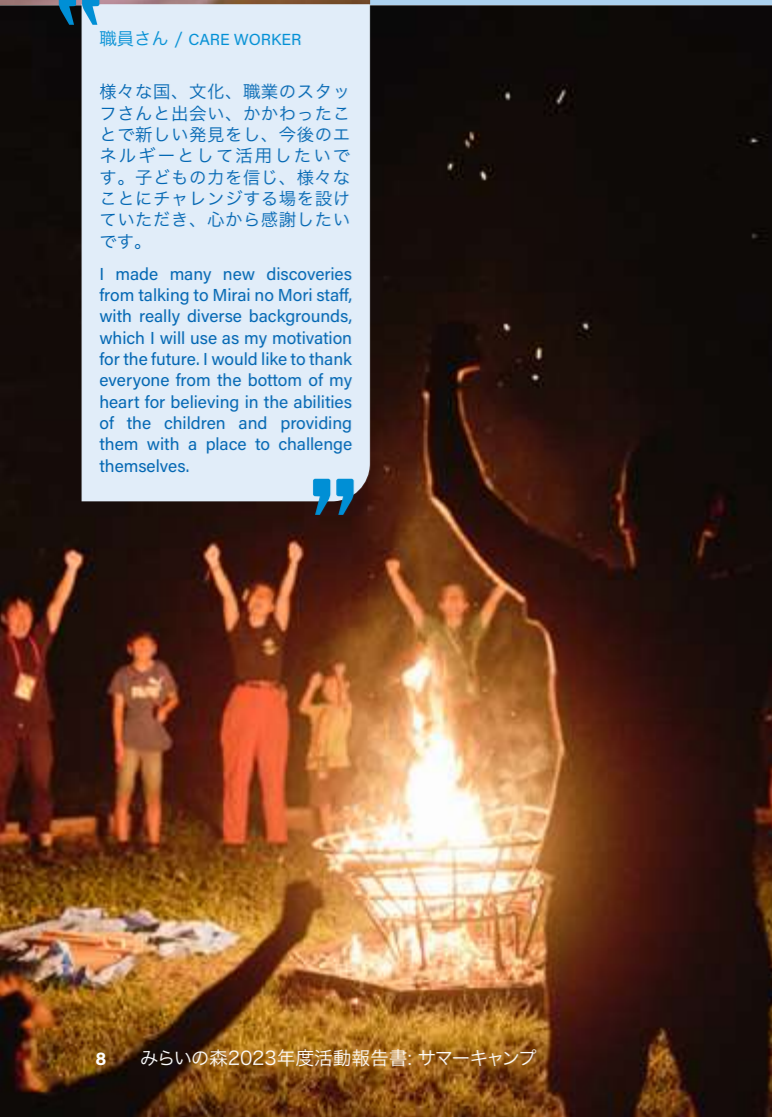
Children who watched the LITs in action as campers were back as LITs themselves. And a graduate who spent countless summers as a camper and LIT came back as a volunteer staff. It was a very special summer for us, witnessing the positive cycle from campers and LITs to graduates.



職員さん / CARE WORKER

様々な国、文化、職業のスタッフさんと出会い、かかわったことで新しい発見をし、今後のエネルギーとして活用したいです。子どもの力を信じ、様々なことにチャレンジする場を設けていただき、心から感謝したいです。

I made many new discoveries from talking to Mirai no Mori staff, with really diverse backgrounds, which I will use as my motivation for the future. I would like to thank everyone from the bottom of my heart for believing in the abilities of the children and providing them with a place to challenge themselves.



キャンパー / CAMPER

今回初めてチームリーダーになってみて、楽しかった！沢登りでは、みんなの見本になるジャンプをしたり、たくさんの方に挑戦できた！スーパースタッフから、リーダーシップのシールをもらえた事も嬉しかった！

I enjoyed being the team leader for the first time! I challenged myself a lot and jumped from the rock during the stream hike as an example for everyone! I was happy to get a "leadership" sticker from the super staff.



キャンパー / CAMPER

沢登りの高い方のジャンプができなくて悔しい思いをしたり、チームの小さい子たちのために我慢しなければいけない事もありました。でも、自分の大好きなダンスをみんなの前で披露することができたり、怖かった火や水を克服できたり、私のKindnessを色々な面で見せることができ、最終的にCamper of the Campという賞をもらうことができて嬉しかったです！

I got frustrated because of the younger campers on my team and I couldn't jump from the high rock at the stream hike because I was too scared. But I was able to perform my favorite dance in front of everyone, overcame my fear of fire and water, and showed my kindness on many occasions. I was very happy to get the "Camper of the Camp" award in the end!





自然つながり プログラム

Back to Nature Programs

プログラムパートナー
PROGRAM PARTNERS



ISONUMA MILKFARM
TOKYO, since 1952



327 参加キャンパーの数
CAMPERS

86 参加引率職員さんの数
CARE WORKERS

8 参加施設数
CHILDREN'S HOMES

NOV 2022-
OCT 2023

2023年は、子どもたちと職員さんが安心して参加できるよう、宿泊スノープログラムまでは施設ごとのご参加の形を取りましたが、職員さんとの対話も重ね、4月からは複数施設合同の形で、プログラムを再開することができました。当初は初対面の子どもたちと活動することを心配しているキャンパーの声もありましたが、その一方で新しい友達を作りたいという頼もしいリピーターの声も聞こえてきます。また、ご協賛企業のボランティアさんとの交流も戻ってきて、元気いっぱいな子どもたちのエネルギーに圧倒されつつも、負けじと楽しむ「本気の大人」の姿もとても印象的でした。

日帰りのプログラムをサマーキャンプ参加に向けたお試しとして活用してくれる施設さんもありました。小学校低学年の子や、初めての場所や初対面の人の前だと緊張しやすい子に参加してもらい、みらいの森の雰囲気を知ってから、本人がより積極的な形でサマーキャンプに参加できるようサポートしてくれています。

今後も職員さんと連携しながら、どのように「みらいの森」という場を継続的に自立支援の場として活用いただけるのか、試行錯誤を続けていきます。

In 2023, we invited one care home at a time for the snow program. However, after consulting with care workers, we resumed our weekend programs with multiple care homes in April. Some campers were concerned about being on the same team as campers they had never met. But we also had many enthusiastic repeaters who were looking forward to meeting new campers. We also welcomed back volunteers from sponsoring companies. Some were overwhelmed by the energetic campers, but it was great to see many of them really enjoying themselves.

Some care homes used these one-day programs as a trial leading up to the Summer Camp. First and second graders and children who get nervous easily in the new environment came to join the day programs so that they could get used to the atmosphere of Mirai no Mori and participate in the Summer Camp in a more positive way.

We will continue to improve our program, working closely with care workers, to empower children so that they can continue to gain positive attitudes towards their independence.

職員さん / CARE WORKER

普段はあまり素直になれない中学生のキャンパーのことが初めは気になっていました。でも、彼は小学生の時から継続的にプログラムに参加しているので、徐々にみらいの森でのスーパースタッフやアクティビティの内容の濃さに吸い込まれ、最後には笑顔で自ら楽しんでいる様子を見ることができて本当に良かったです。みらいの森のプログラムは私はまだ2回目ですが、子どもたちの可能性を広げて下さるみらいの森は改めて素敵な場所だと思いました。

I was worried about a camper who is going through a lot as a second grader in junior high school. But with his experience as a camper from a younger age, he really got into the activities and interactions with staff. I was so glad to see him smiling and enjoying himself. This is only my second time joining, but I can already see that Mirai no Mori is a wonderful place that expands the possibilities for the children.

キャンパー / CAMPER

みらいの森に参加するのは2回目だったけれど、勇気を出して初めてリーダーをやってみました。ヘッドカウントの呼びかけをする度にみんながちゃんと集まってくれて嬉しかったです。たまにはリーダーシップに挑戦してみるのがいいなと感じました！

It was my second time joining Mirai no Mori but I volunteered to be a team leader. It was great that everyone came together when I called for a head count. I should try being a leader more often!



スポンサー / SPONSOR

何歳になってもやっぱり水遊びは楽しいです！若者の力に圧倒されましたが、子どもたちのパワーに負けたくらい楽しむことができました。彼らの可能性の大きさを感じ、僕も影響を受けました！

No matter how old you are, playing in the water is always fun! I was overwhelmed by the power of the young people, but I had as much fun as I could with the power of the campers. I could feel how big their potential is, and I was inspired by them too!





WORKPLACE VISIT PARTNERS



Morgan Stanley



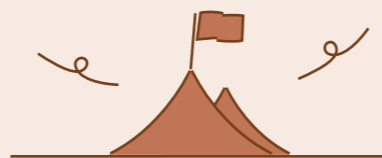
ORACLE

9 参加リーダー実習生の数
LIT PARTICIPANTS

4 参加施設数
CHILDREN'S HOMES

31 プログラム数
NUMBER OF PROGRAMS

51 プログラム日数
NUMBER OF DAYS



リーダー実習 プログラム

Leader in Training Program

今年度は新型コロナウイルス感染症が収まり始めたことを受け、LITプログラムも正式に年間プログラムとして再開しました。高校1年生から3年生まで、またLITプログラムのリピーターやキャンパーとしてみらいの森プログラムに参加していたメンバーなど、幅広い経験値を持つメンバーたちが集まりました。

自然つながりプログラムやサマーキャンプでも、複数施設合同のプログラムが再開し、LITたちも多くの施設の子どもたちと交流することができました。サマーキャンプでは、プログラムを運営する側として、裏方の準備や片付けから、アクティビティーの進行役、キャンパーたちのサポートなど、様々な場面で活躍してくれました。

毎月の自然つながりプログラムでは、キャンパーたちのチームに入ってもらったりアクティビティーの担当をしたりと、リピーターのキャンパーたちとも顔見知りになり、キャンパーにとってもスタッフにとっても信頼できるみらいの森プログラムのメンバーとして成長しています。夏休み中に開催した企業訪問では、様々な従業員みなさんのライフスタイルや働き方を見ることができ、また、1月に実行した2泊3日の大分旅行LITプロジェクトではグループとしての行動の難しさや、問題が起きた時の考え方やまとめ方も体験することができました。

This year, the LIT program resumed officially as an annual program. A total of 9 members joined the program, ranging from first-year to final-year students, including LIT program repeaters and a member who had been joining Mirai no Mori as a camper for many years.

The Back to Nature program and the Summer Camp also resumed as multi-home programs, and LITs had more opportunities to interact with campers from different homes. During the summer camp, LITs had various behind-the-stage tasks as operation staff, managing activities from beginning to end and providing general support to the campers.

In the Back to Nature program, they often joined the camper team to support the team leaders and ran routine activities, becoming dependable members to both the campers and the staff. Outside of the regular programs, they had opportunities to learn different life and work styles in the workplace visit programs and experienced the difficulty of managing groups when they encountered a few issues during the LIT project.



LITマネージャーから / FROM LIT MANAGER

今年度は早い段階から毎回のプログラムで同じ作業を行ってもらったため、すぐに流れに慣れ、細かい指示なしで自分たちから動けるようになりました。また、毎月のプログラムに休まず参加してくれるメンバーも多くいたため、キャンパーたちとの交流も深まり、LITたちとの再会を楽しみに来てくれるキャンパーたちも増え、良いロールモデルとしても、プログラムに欠かせない存在となっています。

今年度から、毎月の自然つながりプログラムが正式に土日とも開催されるようになったため、自分たちのタスクなどを管理する練習の機会が増えました。一方で、LITたちだけで行うワークショップなどの時間が減り、チームワークやチーム内でのコミュニケーションを練習する機会が減るという側面もありました。1月に実施したLITプロジェクトでは、このコミュニケーション不足が課題となった場面もありました。しかし最終的には、メンバー一人一人がそれぞれの仕事に責任を持ってやり遂げ、発生した問題をその都度解決しながら、プロジェクトを最後まで終わらせることができました。今年度も非日常な環境で多くの学びの機会を提供することができました。

We had a set of tasks for LITs in our regular programs from the beginning, so they got into the routine quickly. They were able to work without detailed instructions from early on. And because most of the members were at every program, campers became very familiar with them, and they became great role models.

We had the Back to Nature program on both Saturday and Sunday every month, so they had continuous opportunities to practice their task management. However, there was less time for the LIT-only programs and, thus, less time to practice teamwork and communication. The lack of teamwork became apparent during the planning stage of the LIT project, where they encountered a few communication and management issues. All in all, we had another great program this year, where LITs faced several challenges and had continuous opportunities to gain new experiences, knowledge, skills, and self-confidence.





プログラムパートナー
PROGRAM PARTNER



15 プログラム卒業生の数
GRADUATES

5 出身施設数
CHILDREN'S HOMES
REPRESENTED

卒業生プログラム

Graduates Program

彼らが夢へ向かって着実に歩めるよう、学校でも施設でも会社でもない、もう1つの居場所として、リーダー実習プログラム修了生を対象に、卒業生プログラムを開催しています。自立後もつながりを維持し、多様な考え方やライフスタイルを持つ人々と交流する機会を通し、貴重な相談相手や日々の生活への刺激を得るきっかけにもなります。

「卒業後もみらいの森とつながり続けたい」と積極的に思ってもらうためには、小・中学生や高校生のときに共有した体験と、築いた信頼関係が基盤になってきます。今後も、キャンパーがLIT生に憧れ、LIT生が卒業生に憧れ、卒業生がロールモデルとしてみらいの森プログラムで活躍できるような、ポジティブなサイクルを目指し、プログラムを成長させていきます。

To continue to provide support after graduation, Mirai no Mori has a graduate program for those who participated in the Leader in Training (LIT) program. The aim is to create a community of graduates and provide a resource in addition to their schools or workplaces. By maintaining ties, they can continue to interact with people with diverse ideas and lifestyles, getting stimulus for their daily lives and inspiration for their future.

The foundation for the success of this program is based on the relationships we form before they graduate, starting even from elementary school. We will continue to grow the program and aim to create a positive cycle of campers to LITs to graduates, who can then return to our program as role models for the younger campers.



卒業生たち

高校卒業と同時に始まる自立生活は、それまでの施設での生活から一変します。常に見守ってくれていた、頼れる大人がいない状況で、新しい学校、職場、人間関係、一人暮らしなど、今まで経験したことのない、まったく新しい環境と問題に柔軟に対応していかなければいけません。

急に手に入った「自由」と「責任」に困惑し、良いバランスを見つけるのに苦労する子も多くいます。自立後に必要な知識やスキル、心構えを、施設にいる間に身に着けることは簡単ではありません。児童養護施設で生活できるのがおおむね18歳までなので、そこで一段落と感じてしまいがちですが、施設の職員さんの切実な声としてよく聞くように、彼らの本当の学び、成長そして夢への第一歩は、施設を出てから始まるのです。

GRADUATES

Graduating from high school means the start of independence, a life in a completely different environment with many new challenges, such as a new school, workplace, relationships, and living alone. Without the presence of familiar and supportive adults, many are bewildered by the "freedom" and "responsibility" they suddenly have and struggle to find a good balance.

It is simply impossible to acquire the knowledge, skills, and attitude they need for this new chapter while in school and living in care homes. Since children can only live at the care homes until the age of 18, in principle, care workers often express that it is easy to see the transition to independence as an ending. However, it is actually the beginning of real learning, growth, and challenges toward their dreams.

2023年プログラム

プログラム開始から3年目となる今年度は、チャリティイベントや、スノープログラム、サマーキャンプへのボランティア参加などにも挑戦してくれる卒業生が出てきました。スポンサーさんとの交流を通し視野を広げたり、自身の生活での悩みや困りごとを気軽に相談したり、気分転換の場としても活用してくれています。また、キャンパーやリーダー実習生が参加するプログラムに卒業生も参加してくれるおかげで、みらいの森は卒業後や施設退所後もつながることのできる場という理解が広まってきています。

来年度は4年間の大学生活を終え新社会人になる卒業生もいます。彼らのライフステージやニーズの変化に合わせ、私たちのサポート方法も進化させながら、今後も彼らにとって居場所の1つとなるように、活動を継続させていきます。

PROGRAM IN 2023

In this third year of the program, with the pandemic subsiding, some graduates participated in our charity events and volunteered as staff in programs. They used these opportunities to interact with adults to gain broader perspectives and reunite with Mirai no Mori staff to discuss problems they are having and get advice. The presence of these graduates in the programs also allowed LITs and campers to realize that Mirai no Mori is a place where they can stay connected even after leaving the care homes.

Some of our graduates will be graduating from university and entering the workforce next year. As their life stages and priorities change, our support methods will evolve with them, and we will continue to maintain Mirai no Mori as one of the places they can stay connected to and rely on.



「
キャンポボランティア /
CAMP VOLUNTEER

毎日大学やアルバイトで忙しそうにしているながらも、時間を作ってみらいの森イベントに顔を出しに来てくれることを素直に嬉しく思います。同じ空間にいてリラックスしている様子を見て、みらいの森を居心地がいい場所、自分の「居場所」と思ってくれていると感じました。

I genuinely felt joy and appreciation that graduates made time to come see us at Mirai no Mori programs, even though they are busy with schools and jobs. Seeing them relaxing and comfortable being themselves, I can see that they feel they belong here at Mirai no Mori.



卒業生 / GRADUATE

10周年記念パーティーのような、大人が対象のイベントには初めて参加しましたが、LIT時代にプログラムと一緒に活動したメンバーやスーパースタッフ、スポンサーさんなど、久しぶりの人たちと話すことができても楽しかったです。特に卒業生の1人が大勢の人の前で緊張しながらもスピーチを行い、場を盛り上げている姿を見て、私も勇気を貰えました。来年からはいよいよ社会人としてスタートを切ることになり、不安でいっぱいですが、他のみんなのチャレンジする姿勢を見習いたいと思います。

Mirai no Mori's 10th anniversary party was my first time attending a party for adults, and I really enjoyed talking with people I hadn't seen in a while. I was especially encouraged by a fellow graduate, who was in the LIT program with me, giving an amazing speech in front of everyone, even though he was very nervous. Next year, I will be graduating and starting my career, and I am very anxious, but I would like to learn from others' attitudes and take on challenges.



卒業生 / GRADUATE

今回のチャリティイベントへのボランティア参加体験を通して、あらためてみらいの森やほかの団体が多くの方のおかげで支えられていることを実感しました。また自分や他の参加した卒業生のように、LIT卒業生がこのようなイベントに参加することで、いま施設に暮らしている子どもたちが新しいことにチャレンジするきっかけになればいいなと思います。

Joining events made me realize once again that Mirai no Mori and other organizations are supported by so many people. I hope that seeing the graduates like myself participating in these Mirai no Mori events will encourage children in care homes to do the same and try new things.

KIWLとのパートナーシップ

Partnership with KIWL



KIWLとは

KIWL (Knights in White Lycra) は、スポーツや趣味を通じて「Get fit, Give back (体を動かし、社会貢献を)」を掲げる国際的なグループで、2013年に発足後、日本の児童養護施設で暮らす子どもたちのためにファンドレイジングを行っています。メインイベントである500kmのチャリティライドに加え、チャリティウォーク、ランニングイベントなど、たくさんの企業と個人のみなさまが楽しく参加できるイベントを通し、子どもたちを支援するとてもユニークな団体です。

パートナーシップ

みらいの森は、KIWLのチャリティパートナーとして2016年からの3年間、そして2023年もサポートいただきました。ご支援を通じ、たくさんの企業のみなさまをご紹介いただき、サマーキャンプや週末日帰りプログラムを継続的に開催するための基盤を強化することができています。また、退所後も繋がり続けている卒業生も参加できる、チャリティイベントという貴重な機会もご提供いただいています。

今後も多様性溢れるKIWLのコミュニティのみなさまと一緒に、子どもたちが自らの道を切り開き、夢を叶えるためのサポートを続けていきます。

ABOUT KIWL

KIWL (Knights in White Lycra), founded in 2013, is a group of individuals raising funds to support disadvantaged children in Japan through sport and leisure with their motto of "Get fit & Give back." Besides their flagship 500km cycle ride event, they organize charity walks/runs, pub quizzes, and other fun and engaging fundraising events where corporates and individuals can participate.

PARTNERSHIP

KIWL has supported Mirai no Mori as their charity partner for three years between 2016 and 2018 and again in 2023. Through their support, we were introduced to many corporations and supporters, strengthening our foundation to continuously provide programs for children. KIWL has also provided valuable opportunities for our graduates by allowing them to participate in charity events.

Together with the diverse individuals of the KIWL community, we will continue to support children to realize their dreams.



2023年スポンサー&パートナー
2023 SPONSORS AND PARTNERS



アルファベット順 / IN ALPHABETICAL ORDER

プログラムの成果

Our Impact

みらいの森の活動を継続し、より良いプログラムに進化させていくために欠かせないパートナーである職員さんたちに、どのようにみらいの森を活用しているか、また、子どもたちそして職員さんたちにどのような影響が見えてきたのかを、聞いてみました。

Care workers are essential partners for continuing to provide and improve our programs. We had an opportunity to talk to care workers about how they utilize Mirai no Mori programs and the effects that they have seen.

みらいの森プログラムへはいつから参加していますか？

Mさん

私は2018年の1月のスノープログラムが初めて参加したプログラムでした。

Tさん

私は2017年のサマーキャンプからでした。

WHEN WAS THE FIRST TIME YOU JOINED A MIRAI NO MORI PROGRAM?

CARE WORKER M

My first program was the Snow Camp in January 2018.

CARE WORKER T

I have been joining Mirai no Mori programs since the Summer Camp of 2017.



最初はどのような目的で参加し始めましたか？

Tさん

最初は社会での経験値が乏しい子どもたちを外に連れ出す機会を増やそうと思って参加しました。特に活動量があふれていて、園内では手を焼いてしまうような子とか、職員が外に連れ出すことに不安を覚えるような子どもたちを継続的に外に出して社会経験を増やす機会になったらいいなと考えていました。

WHAT WAS THE INITIAL PURPOSE OF JOINING THE PROGRAM?

CARE WORKER T

We first joined the program to create more chances for the children to gain experiences outside of their care homes. We were hoping it would be a good continuous option, especially for those who were very active, and we often hesitated to take them out to the public.



プログラムに参加し始めた時はどのような印象を受けましたか？

Tさん

最初のプログラムで、集合場所に到着するまでの移動中に早速、迷子になった子がいて、すぐに見つけたので問題はなかったのですが、それ以来、彼はきちんと周りを見て、自分からついてくるようになりました。やはり、あのような自分自身がひやっとする経験が次につながるかぎなんだと実感しました。また、プログラム中に全然言うことを聞いてくれない子がいて、普段だったら「連れてこなければよかったかも、迷惑をかけてしまっているかも」と負い目を持ってしまいがちですが、みらいの森スタッフが「彼に楽しく様々な体験をしてもらうにはどのようなアプローチをしたらいいかな」と聞いてくれ、そのような子にも寄り添い受け入れてくれるのかと気がつき、気が楽になったのを今でも覚えています。

Mさん

私が担当している子がサマーキャンプに参加した時、着替えの服が全然足りなかったことがあったのですが、みらいの森スタッフが何の問題もない様子で、しかも本人と一緒に楽しく対応してくれて、とても心強かったです。あのような体験から様々な予想外の状況に対応する力や失敗を乗り越える力がついてくるのだなと思いました。



HOW WAS YOUR EXPERIENCE WITH MIRAI NO MORI AT FIRST?

CARE WORKER T

We had a boy who got lost in the train station on the way to our very first program. We found him right away, so there was no problem, but since then, he learned to be aware of his surroundings. It was a great learning experience for him, which would not have happened without the opportunity to go out. We also had a child who did not follow instructions and caused trouble during the program. Usually, we tend to have negative feelings and regret bringing him, but the Mirai no Mori staff were very supportive and focused on methods for him to enjoy the program. I still remember the ease and security I felt from the conversation with the staff.

CARE WORKER M

When a child that I was looking after joined the Summer Camp, he took far less clothing than he needed to. But Mirai no Mori staff didn't seem to be concerned and used the opportunity to find solutions together with the child. I realized that is how children gain the ability to deal with small mishaps and unexpected events.



今はみらいの森をどのように活用しています？

Tさん

子どもたちが毎月遊びに行ける、安定した場所としてですね。とりあえずプログラムの集合場所に行けば後は安心してみらいの森側に任せられるので、とてもありがたい存在です。また、同じ活動場所に毎行っていると子どもたちも流れを覚えてくれるので、電車を乗り間違えた時に気づいて教えてくれたりもします。これも継続しているからこそその効果ですね。

Mさん

小中学生のキャンパーたちにはとことん楽しんでもらう場として、活用させていただいています。楽しいから継続して参加する。参加すると外に出る機会も増えて、他の人との交流や自分の思い通りにいかない状況にも慣れてきて、自然と力がついてくる。やはり、継続は力ですね。LITたち(高校生)に関しては自立支援団体の一つとして活用しています。企業訪問などで多くの大人と交流し、普段とは違う形で社会と触れ合うことのできる場所。また、プログラムごとに振り返りをするので、自分と向き合い考える場、そしてその考えを言葉にして人に伝える良い練習の場だと思います。このような機会って日常生活では実はあまりないんですね。

HOW ARE YOU USING MIRAI NO MORI NOW?

CARE WORKER T

We use it as a place where children can go reliably every month. As long as we take them to the meeting point, the Mirai no Mori staff can take over the rest, so it's very easy for us. And because they have programs at the same places, children get used to it too and let us know when we get on the wrong train.

CARE WORKER M

For the younger children in elementary and middle school, it's a place for them to simply have fun. They'll keep joining because it's fun, and they'll have more chances to be out, meet new people, and experience irregularity, gaining more abilities naturally. As for the high school-aged children, it's more like one of the supporting organizations. They see society from different angles by meeting a variety of adults as program volunteers and at workplace visits. It's also a valuable place for them to reflect on themselves and communicate their thoughts. It's actually quite a rare opportunity in their everyday lives.

子どもたちにとってみらいの森はどのようなところだと思いますか？

Mさん

定期的に参加する子たちにとって、確実に「居場所」の一つになっていますね。いつでも安心して帰れる場所、そして新しいことに挑戦し、その体験を次に活かすことのできる場所だと思います。施設に暮らしている子の中で、外の世界を怖がる子も多いのですが、そのような子が外とつながる場でもあり、施設だけでは体験できないようなことをたくさん体験できる場所です。

Tさん

継続して参加しているからこそ、常にそこにある、生活の一部のような存在かなと思います。施設内でも当たり前のようにみらいの森に関するトピックが会話にでてきて、プログラムの空気感がずっと残っている。それがプログラムに参加したことのない子にも影響していて、身近な存在に感じているんだと思います。だから、キャンパーとして参加したことのない子が高校生になってLITプログラムに入ったり、数年間のブランクがあっても、中学生の最後にまたプログラムに参加できたりと、いつでも戻れる場所、行くことのできる場所になっていると思います。

WHAT DO YOU THINK MIRAI NO MORI IS FOR THE CHILDREN?

CARE WORKER M

For those who attend regularly, it has become one more place they feel they belong to. It's a secure place where they can try new things and keep on learning. There are many children who fear the outside world, but Mirai no Mori connects them to the outside world. It is a place to gain experiences that they simply cannot at care homes.

CARE WORKER T

It is something that is always there, like a part of everyday life. It comes up in conversations naturally, and the Mirai no Mori atmosphere is always there. This even affects children who have not been to the program, making it feel very familiar to them. That's why a high school student who has never joined as a camper can decide to join the LIT program, and a camper who has not been to the program for several years can come back in her last year in middle school. It is a place they can always go, and go back to.

今後、みらいの森プログラムをどのように改善していただきたいと思いますか？

Tさん

子どもたちがプログラムに参加できる機会をもっと増やしてほしいです。月に一回ですと、もしその週末に都合が合わない2か月も空いてしまいます。それから、他の施設の子どもたちと活動できる機会が増えるとうれしいです。同年代の子どもたちがどういうことに興味があるのかとか、何を考えているのかなど、自分の施設外の世界にも目を向けられるので。

Mさん

中学生向けのプログラムがあるといいですね。職業体験とか社会見学のような、小学生よりももう少し自立後にフォーカスしたような内容で。もしくはもっと特化したテーマで、その専門家の話が聞けて、さらに興味を広げられるような機会もあるといいですね。

日常生活を共にし、子どもたちの幅広い成長を一番望んでいる施設の職員さんたちに、今後もみらいの森という場を「自立支援」の一環として楽しく活用いただけるよう、みらいの森も進化を続けていきます。

Care workers spend time with the children the most and wish for the best outcome for every child. Mirai no Mori will continue to work with them and improve the programs so that the children and care workers can benefit from our programs.

HOW WOULD YOU LIKE MIRAI NO MORI TO IMPROVE ITS PROGRAMS?

CARE WORKER M

I would like to see more chances for the children to join the program. Currently, it's only once a month, and if their schedule doesn't work out, it would be 2 months between programs, which is just too long. It would also be nice to have more homes in the same program so that children can see what other children of a similar age are like.

CARE WORKER T

Programs for middle school-age children would be good, with a little more focus on life after leaving the care homes, like work experience and educational content. Or maybe a program with a specific topic and experts from that field to really engage their interests.



職員さんにとってみらいの森はどのような存在ですか？

Mさん

子どもとの新しい関わり方を学ばせてもらう場所ですね。普段の生活に追われていると、彼らの自立支援という大きなゴールを見失いがちになってしまうのですが、子どもの気持ちを尊重し、やりたい事をやらせてあげられる考え方や、子どもたちが自発的に考えて動けるような方法を学ばせてもらっています。

Tさん

子どもたちと職員は日常の生活の場で常に一緒に過ごしているの、職員の話は受け流されてしまうことが多いのですが、みらいの森で会ったスタッフやボランティアさんが同じような会話や質問をしてくれることで、社会にいる人たちが似たような意見を持っていることに気が付き、職員の言葉にも重みをもたせてくれる。外の世界と気軽につながることのできる存在です。

WHAT IS MIRAI NO MORI FOR THE CARE WORKERS?

CARE WORKER M

It is a place for us to relearn how to work with the children. It's easy to lose sight of the big picture of where the education of these children should be heading. Mirai no Mori taught me how to respect their thoughts and behavior and ways for them to think and act on their own.

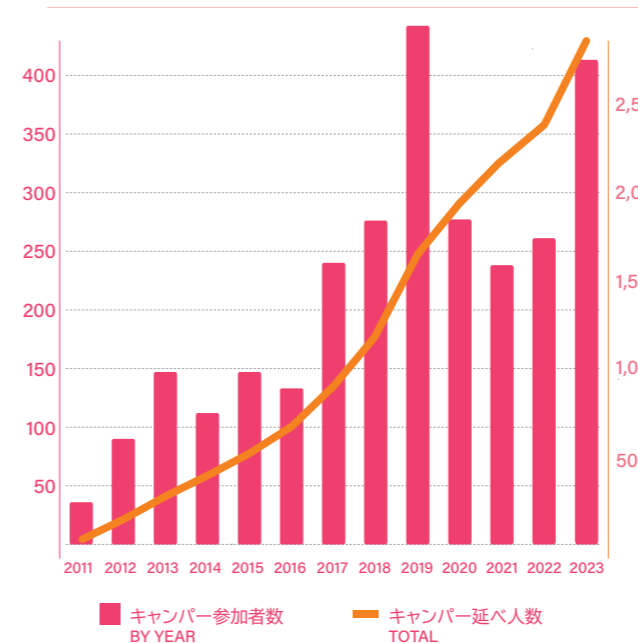
CARE WORKER T

Because we're always together, the words of care workers don't have much weight to some children. But when staff and volunteers at Mirai no Mori mention or ask them the same things, they realize that other adults also have similar thoughts and opinions, and attitudes towards care workers change slightly. It's a convenient way to connect to the outside world in this sense, too.

696 プログラムに参加した延べ引率職員数
TOTAL NUMBER OF CARE WORKERS

2,812 これまでプログラムに参加した延べキャンパー数
TOTAL NUMBER OF CAMPERS

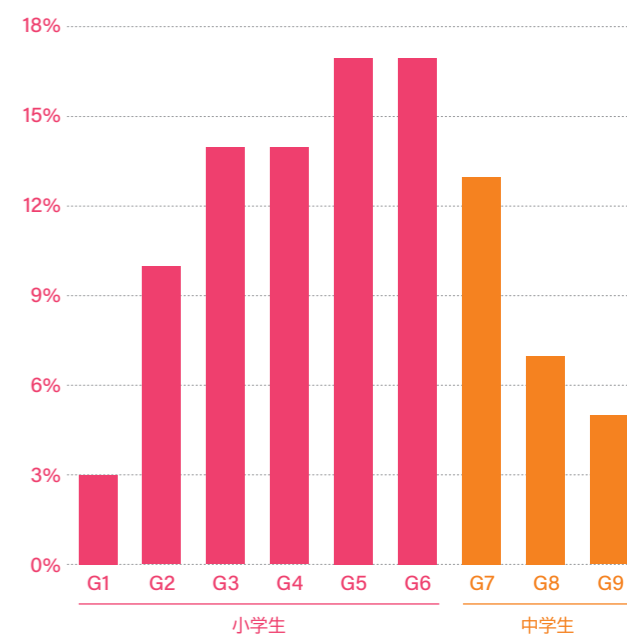
年別&延べ参加者数
NUMBER OF CAMPERS



キャンパー男女比
GENDER RATIO

58% 女の子 GIRLS 42% 男の子 BOYS

学年別キャンパー率
RATIO OF CAMPERS BY GRADE



みらいの森チーム

Mirai no Mori Team

2023年10月31日時点
AS OF OCTOBER 31, 2023

理事 BOARD OF DIRECTORS	理事長 CHAIR	ダニエル・コックス Daniel Cox
	副理事 VICE CHAIR	ジェフ・ジェンセン Jeff Jensen
	理事 BOARD MEMBER	ヒルダ・チャン Hilda Chan
	監事 AUDITOR	ロリ・ヘンダソン Lori Henderson
	監事 AUDITOR	大澤 加奈子 Kanako Osawa
アドバイザー ADVISORS	アドバイザー ADVISOR	セラジーン・ロシート Sarajeon Rossitto
	アドバイザー ADVISOR	ロバート・ウィリアムズ Robert Williams

スタッフ STAFF	エグゼクティブ・ディレクター EXECUTIVE DIRECTOR	岡 こそえ Kozue Oka
	オペレーション・マネージャー OPERATIONS MANAGER	油田 季紀 Toshi Yuta
	プロジェクト・マネージャー PROJECT MANAGER	塩津 萌々夏 Momoka Shiotsu
	総務・経理 ADMIN & BOOKKEEPER	岸川 慶子 Keiko Kishikawa
	総務・経理 ADMIN & BOOKKEEPER	関口 友佳 Yuuka Sekiguchi
	経理 BOOKKEEPER	及川 由美子 Yumiko Oikawa

+ たくさんのインターン生・ボランティア・キャンプ
スタッフのみなさま
MANY INTERNS, VOLUNTEERS AND
CAMP STAFF



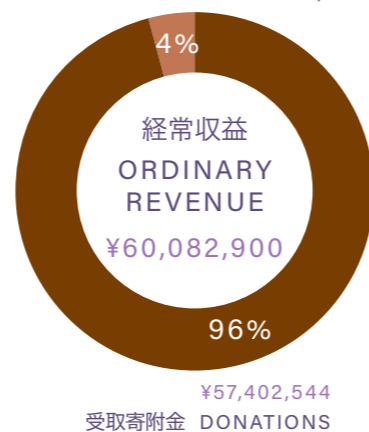
活動計算書

Financial Statement

第12期：2022年11月1日～2023年10月31日
THE TWELFTH PERIOD: NOVEMBER 1, 2022 - OCTOBER 31, 2023

事業費人件費 PROGRAM: LABOR COSTS	¥10,316,178
事業費その他経費 PROGRAM: OTHER EXPENSES	¥21,814,388
管理費人件費 LABOR COSTS	¥3,118,626
管理費その他経費 OTHER EXPENSES	¥568,774
経常費用計 TOTAL	¥35,817,966
当期経常増減額 CAPITAL INCREASE (DECREASE)	¥24,264,966
経常外収益 MISC. INCOME	¥0
経常外費用 MISC. EXPENSES	¥0
税引前当期正味財産増減額 ACCUMULATED CAPITAL BEFORE TAX	¥24,264,934
前期繰越正味財産額 ACCUMULATED CAPITAL AT TERM BEGINNING	¥77,750,646
次期繰越正味財産額 ACCUMULATED CAPITAL AT TERM END	¥102,015,580

¥2,670,000 受取助成金 GRANT FUNDING
¥10,356 その他 INTEREST REVENUE, ETC.



サポーターのみなさま

Our Supporters

年間スポンサー
ANNUAL SPONSORS



物品寄付・プロボノ
IN-KIND DONATIONS & PRO-BONO SERVICES



児童養護施設支援協力
CARE HOME SUPPORT



プログラムスポンサー
PROGRAM SPONSORS



卒業生プログラム GRADUATE PROGRAM



みらいの森フレンズ・プロモーター
MIRAI NO MORI FRIENDS & PROMOTERS

発行
PUBLICATION DATE
March 2024

作成協力
CONTRIBUTORS
Anne Smith, Yukimitsu Hasegawa
Kathryn Wortley, Yuka Yasukawa

写真協力
PHOTOGRAPHERS
Satoshi Aoki, Gordon Davis
Yasu Iijima, Nayan Moodley



連絡先

認定特定非営利活動法人 みらいの森
〒105-0011 東京都 港区 芝公園 2-6-8
日本女子会館 5階 OWL

info@mirai-no-mori.jp 03-6435-7504

Contact

NPO Mirai no Mori
JAWE 5F OWL, 2-6-8 Shibakoen
Minato-ku, Tokyo 105-0011

www.mirai-no-mori.jp



ご支援のお願い

みらいの森のプログラムをより多くの子どもたちに継続して提供するために、我々のミッションに賛同してくださる個人、企業、グループの方からのサポートが必要です。児童養護施設で暮らしている子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会で幸せに暮らしていくために、みなさまのご支援、ご協力をお願いいたします。

Supporting Mirai no Mori

Mirai no Mori is always looking for support from like-minded individuals, groups, and corporations, who agree with and believe in our mission. Please help us continue to serve children in care homes, so they can have a brighter and happier future. There are many ways you can support us to achieve our mission.

